

イギリス UWC アトランティック イギリス校 西尾さん

留学期間：R5.8～R7.6（2年間）

私はイギリスのウェールズに位置するインターナショナルスクールの UWC アトランティックに通っています。全寮制の学校でオランダ人、イタリアとスペインのミックスであるベルギー人と、ロシアとイスラエルのミックスで、スイスで生まれたアメリカ人と同じ部屋で暮らしている私は純日本人です。多様性を重視する UWC らしさが詰まりに詰まった部屋でまだ適応しきれていないと感じます。

この学校で一番感じているのは文化とその根底にあるマインドセットの違いです。

声をあげて外的要因を変えようとする欧米文化と、察して内的要因を変える日本文化は大きく違って、それで不便を感じる人が多いです。

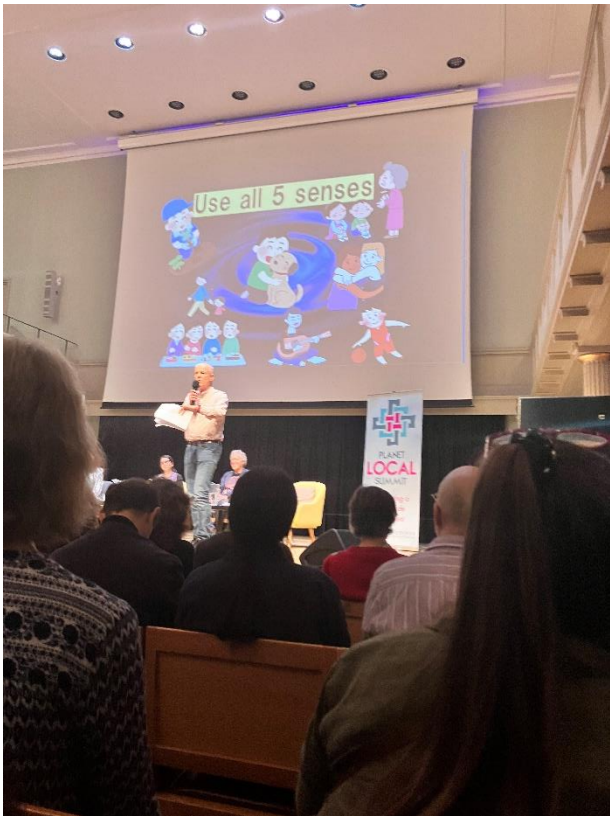
最初はスピーカーで、大音量で音楽をかけ、「言ってくれたらやめるから」というルームメイトに対して、（言われなくてもやめてくれよ、、、）と感じることがありましたが、少しずつ自分の意見を伝えていくことで住みやすくなったと思います。

しかし、これは僕が自分の「察する文化」をないがしろにする同一化によって成り立つものなので、多様性を尊重する UWC を実現するためにもまだまだ試行錯誤は続けていきたいです。

そんなザ・欧米文化の人たちも授業中はとても頼りになります。日本では、ディスカッション等をやる際に、どのような機会でするかにもよりますが、学校ではあまりしゃべらない学生が多かったように感じます。当時は自分がファシリテーションにもリソースを割く必要がありましたが、ここでは多くの生徒が積極的に発言し、自分の意見をその間に考えたり、人の意見を踏まえてブラッシュアップしたりできるため、自分自身の思考のレベルが上がったように感じます。

今頑張っているのは STP(System Transformation Pathway)と呼ばれる、世界でアトランティックカレッジだけのカリキュラムです。STP は、教室ベースの学びや筆記試験による学習ではなく、複雑な背景を持つ現実世界での実践を意識したカリキュラムで、実際に授業ではケーススタディの様なことが行われ、例を他の事象にどう適応させるかということなどをします。現実社会を取り扱っているにも関わらず学ぶ内容は高度で、ネイティブでも難しい単語も多いためこの科目の学習にはとても苦戦しています。しかし、数学や物理などの科目に比べ現実社会での有用性を感じるため、モチベーションは保ちやすいです。

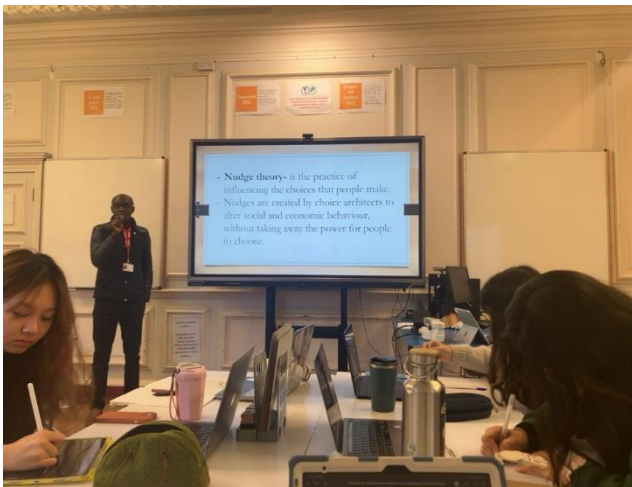
これらのような貴重な経験ができることは、奨学金のためにふるさと納税に協力していただいた方々がいてこそです。本当にありがとうございます。この期待に応えるため、感謝と学ぶ姿勢を忘れず、日々精進してまいります。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。



STP の授業の一環でブリストルの
ローカルサミットに行った時



CAS の活動でエネルギーセンターに行った時



経済学の授業の様子



CAS の話し合いの様子



クリスマスパーティで寮の男子で撮った写真.